

(別紙2-1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 26年 2月 26日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4271600647		
法人名	有限会社 グループホーム ゆうゆうてらわき		
事業所名	グループホーム ゆうゆうてらわき		
所在地	長崎県五島市岐宿町松山 513 番地 1		
自己評価作成日	平成 25年 12月 26日	評価結果市町受理日	平成 26年 3月 5日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 URL	
--------------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島二丁目七二一七 島原商工会議所一階
訪問調査日	平成 26年 2月 18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>・特に力を入れている点→ 小規模施設の良さを最大限に活かし、利用者様や職員が笑顔の絶えない優しく温かい雰囲気作りを心掛けている。</p> <p>・アピールしたい点→ 近隣の診療所と医療連携体制をとっており、日常的な利用者様の健康管理や重度化された場合の対応についても安心して戴ける。又 利用者様の体調不良時 遠方から付き添いに来られるご家族の為に宿泊施設を完備している。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>昔ながらの風景も多く残っており、四季折々の移ろいも間近で愉しむことが出来る静かな佇まいのホームである。代表者、職員は、家庭的な雰囲気の中で入居者が思い通りに笑顔で過ごして頂ける様、入居者の意向に添った支援をされている。開設 10 年目を迎えられ、入居者の高齢化に伴い、外出の機会は減っているが、地域の一員として幼稚園児や地域住民との触れ合いは大切と考えられており、年間行事を通じて楽しい交流がなされている。</p> <p>また、医療連携での 24 時間のバックアップ体制は、本人家族の安心信頼を得られているが、ターミナルケアは避けて通ることが出来ない問題で、入居者の残りの人生を“その人</p>
--

らしく過ごして頂き、沢山の思い出を作ってあげたい”と管理者はじめ職員は、気持ちを一つにしておられ、人として人生の最後に関われることに誇りを持って介護に携わることを示されている。家族にも終末の看取りを職員と共に見守って頂ける様に、隣接地に宿泊施設を完備されており、これから益々、本人家族、地域からも頼りにされるホームである。

1 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼にて理念を唱え、職員全員で理念内容を共有し、業務に取り組んでいる。	開設時、職員総意の下で作成された理念を、職員は毎朝ミーティングで唱和して共有されており、入居者には、笑顔で過ごして頂ける様に、笑顔で支援をされている。入居時、家族にも説明されており、新人職員には、介護主任がつききりでプログラムに添って教育がなされており、理念を共有して、実践に繋がられている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所行事等に地域の方に声掛け参加して頂いたり、地域行事に利用者が見学に伺ったりしているが、年々利用者様の高齢化に伴い、地域との交流が少なくなっている。	年2回、幼稚園児による和太鼓、踊りの慰問は、入居者も大変喜ばれている。事業所主催の敬老会では、近隣にチラシを掲示し参加を呼び掛けており、入居者も歌を披露される等楽しまれている。入居者の高齢化により、外出の機会は減っているが、訪問、慰問者は多く、地域の一員として交流がなされている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症についての様々な研修に参加し認知症ケアの専門性実践力を活かして地域住民の相談にのったりアドバイスを提供している。地域の方がもっと気楽にホーム見学に来ていただく機会が増えると思う。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	評価直後、運営推進会議にて報告し、会議参加者からの質問に回答する等している。又 助言等に傾聴し、サービス向上に活かしている。	管理者は、会議で使用される詳しい資料を作成準備される等、会議開催の目的意識を高く持ち取り組まれている。会議は出席者への配慮から農繁期開催を避けられたことで、多数の家族の参加が可能になり遠慮のない意見交換ができています。出された意見要望は、サービス向上に活かされている。	

5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には、市担当者に必ず参加して頂き、又 認定調査等で市職員訪問の際等、利用者様の現況報告やニーズ等の報告が出来ている。	岐宿支所職員は運営推進会議のメンバーになっており、他事業所の取組等、アドバイスを頂くことがある。入居者の介護度認定調査についての相談をして解答を得られる等協力関係は構築されている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全ての職員が、禁止されている身体拘束について、十分に理解している。又 医療機関からのアドバイスを頂きながら身体拘束をしないケアに取り組んでいる。やむなく実施する場合は、必要な手続きをとっている。	月1回の職員会議では、ホーム独自の「身体拘束」マニュアルを基に勉強会が実施されている。ケアマネジャーは、グループホーム連絡協議会の研修に参加されており、事例検討等の研修内容は、ホームで報告会があり、全職員で共有されて身体拘束をしないケアの実践に取り組まれている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日常的に、気づかないうちに言葉の虐待をしていないか抑圧していないか、意見しあう場面がある。研修に参加し、研修報告することにより、事業所内全員で防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	これまで、成年後見制度を必要とする事例がない為、特に勤務年数の浅い職員は理解が不十分であると思われる。今後意欲的に研修に参加し、必要時支援に繋げる為、社内研修も予定している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、管理者が主となり、利用者代理人様に、詳細な説明を行っている。ケアマネジャーもご家族との話し合いを十分にっており、理解・納得して頂ける様に努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議では、ご家族の参加を基本とし、意見・要望を頂戴している。利用者・ご家族様が、全職員に気軽に声をかけて頂けるような雰囲気作りをしている。頂いた意見は全職員で共有し、業務に反映させている。	入居者のケアに関する家族からの要望には主にケアマネジャーが対応をされている。職員は、家族の運営推進会議参加時や訪問時に意見要望を伺うと共に、入居間もない入居者、家族にはたくさん話しかけることを心がけており、意見要望の傾聴に努められている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議・カンファレンスで意見や提案を出し合って反映させている。また、特別な時間を設けなくても、日常的に発言できる様な関係を築いている。	月1回の全体会議に代表者も同席され、職員の意見提案は早急に検討されている。避難経路にスロープ増設や、ファンヒーターが設置される等意見提案が反映されている。提案は申し送りノートに記録されている。	

12	<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>代表者が現場に来ることは多々ありますが、全職員の仕事内容状況の把握が出来ているかは不明である。向上心をもって働けるよう、研修参加の為の日程調整については理解を示している。</p>		
13	<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>事業所外で開催される研修になるべく多くの職員が受講できるよう支援している。受講者は研修終了後 内容について 職員会議で報告し職員全員が理解し、業務に活かしている。</p>		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>地元の勉強会に参加する等、他施設の職員と交流する機会を作り、サービスの質を向上させる取組みを行っている。他事業所と合同で講師を招き、勉強会を開催した事もある。</p>		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>サービス開始時、ケアプラン作成者であるケアマネジャーが中心となって、利用者とは多く会話し、本人様の要望等 十分に伺い気持ちを理解し、安心信頼していただけるよう努めている。</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>家族のご苦労や、サービス利用状況等、これまでの経緯について伺い、今後 ホームで精一杯のケアをさせて頂く事をお伝えし要望等があれば遠慮なく申し出ていただけるような関係作りに努めている。</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>ケアマネジャーを中心に、本人・ご家族様に現況を十分に伺い、「今一番 どうしたらいいか？」を全職員やご家族と共に考え最も良いサービス内容について検討している。</p>		

18	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者・職員と共にリラックスできる空間でゴミ箱折、新聞折、洗濯物たたみ等をして感謝の言葉を伝えたり 毎日のレクリエーション等では、共に楽しい時間を過ごしている。		
19	○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人様の問題点について、ご家族にお話し、本人様に一番良い方法等意見を伺っている。又ホーム主催のバーベキューにご家族を招待したり ホーム便りで状況をお伝えしている。		
20	8 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔馴染みの方に面会に来て頂ける様働きかけたり、ご家族様にも 出来るだけ面会に来て頂き居室にてゆっくり会話を楽しんで頂いている。	馴染みの美容室には職員同行で支援をされたり、寒い時期にはホームへ訪問して頂いている。家族、知人の訪問には、居室でゆっくり会話を楽しんで頂いている。家族が遠方の入居者には電話をかける等細やかな配慮で馴染みの人との関係が途切れない様に支援をされている。	
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居室で孤立する事がない様 共有スペースにて、利用者同士一緒にテレビを見たり楽しく会話ができる様な雰囲気作りを心掛けています。又利用者間のトラブルが発生しないよう目配りも行っている。		
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、偶然会った時には 挨拶を交わしたり、ご家族様から相談等あった場合には、必要に応じて対応させて頂いている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9 ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の関わりの中で、言葉や表情等から 本人様の真の気持ちを理解できる様努めている。困難な場合は、その方にとって一番良い方法を皆（職員・家族）で検討している。	入居者の思いや意向は、入居者との日常の生活で担当者が傾聴に努め、介護記録に記録されている。入居者の意向は、職員で早急に話し合いを持ち、思いに添う支援に努められている。意思疎通が困難な入居者は、家族からも意見を頂いている。	

24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様に 本人様の生活歴等について情報収集する事の必要性を十分説明し、日常的な会話に交えて 必要に応じ、情報収集している		
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様一人ひとりの個性や生活リズムを理解する為に、利用者をよく観察し、その方の「出来る事」を皆で報告しあい共有している。可能な限りその人らしい生活をして頂ける様努めている。		
26	10 ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	1回/月のカンファレンス以外でも、毎日職員間で利用者様の情報交換を行い、利用者様本位のその人らしい介護計画作成に努めている。	担当制で、入居者との日々の暮らしの中での気付きや本人、家族の意向を基に、月1回のカンファレンスが全職員で実施されている。職員の情報を基にケアマネジャーが中心となり、本人がより良く暮らす為の介護計画が作成されている。長期6カ月、短期3ヶ月で見直しされているが状況の変化ではその都度変更されている。遠方の家族にも郵送し、同意を得られている。	
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員の気づき・利用者様の状態変化・食事量・排泄量等を個別のファイルに記録し、異変の情報交換を行っている。		
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	面会時、ご家族様と会話しながら支援やサービスに取り組んでいる。通院日時の報告をし、ご家族の都合をお伺いし、可能な限り同行して頂いている。受診結果は ご家族に報告し安心して頂ける様努めている。		
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に市職員や民生委員が参加される事により、周辺情報や支援に関する情報交換することができており、利用者様が安心して生活できるような環境整備に努めている。		
30	11 ○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時、本人様・ご家族様の希望を伺い、希望される医院への受診を決定している。希望される医院が無い場合は事業所の連携医院への受診を勧め、スムーズな受診体制を整備している。	月2回の協力医の往診、同協力医院からの週1回の訪問看護、及び24時間体制が整備されている。かかりつけ医は、看護師経験があるケアマネジャーがすべて同行受診し詳細な受診報告は、本人、家族、主治医、職員からも信頼を得られている。今後、消防署に協力依頼して『普通救命訓練』の実施を検討されている。	

31	○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携を結ぶ看護師とは、気軽に相談できる関係を築けており、毎日のバイタル測定の変化報告、夜間帯・日勤帯の異常報告を密に行い対応・受診等の指示を頂いている。		
32	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院となった場合、本人様・ご家族様の気持ちを考え話し合いさせて頂いている。病院関係者の話を元にご家族様に出来るだけ安心していただける方向で話を進めている。		
33	12 ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時、重要事項説明書の中で、事業所における終末期の対応について十分説明している。入所時段階での希望を伺い、記録している（変更可）利用者様・ご家族様の意見、考えの下 医療機関と相談しながら終末期のケアに向け支援している。	ケアマネジャーは『高齢者終末期の医療と介護』研修会に参加されており、終末期看取りに志を高く持って介護にあたることを示されている。管理者は、運営推進会議でも、出席者に報告する等、全職員で支援に取り組む意向を示されている。入居者状況に応じて本人、家族との話し合いは持たれていて、現在も取り組まれておられる。	
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に消防署へ協力依頼し、施設内において普通救命訓練を実施している。又 急変時に備えたマニュアルを作成し、それを元にし 職員全員で勉強している。		
35	13 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	2回/年 消防総合訓練を実施している。又定期的に地域消防団にも訓練に参加して頂いたり、万が一の場合 消防署通報装置にて近隣宅へ応援要請の為の通報登録をさせて頂いている	年2回の自主消防総合訓練では、全職員が消火機器操作を体験しており、役割分担も周知されている。会議では代表による火災予防への注意喚起があり、職員は災害意識を強く持ち、日常の点検を点検表にて確認励行されている。	災害時緊急持出をリュックサックに入れて準備されているが、個人持出ファイルに入居者の補助具使用状況の全体写真添付を助言します。また、非常食、飲料水、生活必需品の保存、見直しを検討され、一覧表による一括管理が望

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者本人様のこれまでの生き方や性格を職員間で尊重し、その方に合った声掛け 対応に心がけている。	入居者の生活歴を十分に把握されており、年長者として敬い、方言も交えながら、優しく言葉かけをされている。個人情報 は、適切に保管管理されている。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話やレクリエーションの際等で本人様の意見や思い 決意等を伺い支援に繋げている。気の合う仲間と日光浴したり 思い思いに過ごして頂いている。	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしい生活、動き、考えを大切にしている。「せかさず じっくり待つ」支援させて頂いている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の整髪のお手伝いをさせて頂いたり、定期的に訪問美容をお願いし、ホームでの散髪を実施している。毛染め・パーマ等、希望があれば美容院へお連れしおしゃれを楽しんで頂いている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材を取り入れた献立作成を心がけ、日常的に 利用者様の「食べたいもの」をお尋ねし出来るだけ喜んでいただける物を提供している。食後の片づけを手伝って下さる利用者様もいる。	食事担当職員が入居者の好みを取り入れながら1週間毎に献立を作成されている。主治医からのアドバイスで量を加減したり汁物にはとろみをつける等、入居者の形態に添った食事の提供がされている。おやつも、職員が手作りされており、季節の行事には巻寿司、雑寿司と提供され、季節を感じながら食事を楽しまれている。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事摂取量・水分補給量のチェックを行い不足分を解消する為の策を検討し補給に向け支援している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で出来る方は声掛け見守りを行い、出来ない方には、毎食後の口腔ケアをお手伝いし、嚥下障害による肺炎防止等にも努めている。	

43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	自尊心に配慮しながら、便意・尿意のある方への介助を行っている。一人ひとりの排泄状態を把握し、出来るだけトイレでの排泄ができる様支援している。	排泄チェック表により、入居者の排泄パターンを把握して、出来る限りトイレでの排泄が出来るよう支援されている。以前、リハビリパンツから布パンツへの変更を試みた経緯があったが現在の所介護度が高くなり、変更がないのが現状である。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	偏食防止の為の献立作りや、適度な運動と水分補給で便秘予防に努めている。又、排泄チェックを確認しながら、緩下剤の服用も行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴日は声掛けし、気分や体調を考慮し入浴・シャワー浴させて頂いている。又 入浴日ではなくても状況により、常時シャワー浴を行っている。拒否される場合は無理強いせず、次回に見送る。	週2～3回の入浴支援で、季節に応じてゆず湯、菖蒲湯と季節を感じながら、ゆっくりと入って頂き、職員との会話も楽しまれている。入浴拒否には、時間を置いたり、入浴日を改めたりして無理強いせずに支援をされている。夏場は入浴回数を増やして清潔にも配慮されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方のペースで自由に居室で過ごして頂いたり心地よく眠りにつけるよう、日中の活動を観察している。眠剤を服用されている方は睡眠状況を確認し、問題があれば主治医と相談している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ケアマネが、各利用者の処方薬についての説明をファイルし、全職員が理解し情報共有している。薬の配薬から、服薬終了まで、何度も数人の目で確認することを徹底し、服薬事故の防止に努めている。		

48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意分野で一人ひとりの力を発揮してもらえよう 掃除・洗濯物畳み等の作業をお願いし、感謝・御礼の言葉をお伝えしている。又 誕生日会・季節の行事を行い、楽しんで頂いている。		
49	18 ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は、地域内の歩行・車椅子での散歩をして頂いている。ドライブに出かけたり、ホーム前の玄関先で日光浴を楽しむこともあり、可能な限り 利用者様の希望に添っての外出支援を行っている。	入居者の要望で近隣商店に買物に出掛けたり、季節毎の花見見物を楽しまれている。高齢化に伴い、外出の機会は減っているが、天候次第では玄関前敷地にシートを敷きお茶や食事を楽しまれたり、車椅子で周辺を散歩する等、外気を感じながら入居者の気分転換が図られている。	
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人・ご家族の意向に従い、小額を持って頂く場合もありますが、基本的には金銭トラブルを防ぐ為 事業所側でお預かりし必要時に本人様にお渡ししたり、代理でお支払いしたりしている。		
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	贈り物等が届いたら、御礼の電話を本人様にして頂いたり、日常的に本人様の希望があればご家族様の許可を頂き 電話の支援をさせて頂いている。		
52	19 ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間では設置されたソファにどなたでも自由に座る事が出来る。又 各所 快適な室温を心がけ、季節感のある飾り付けの工夫をし、心地よく過ごして頂ける様努めている。	広々としたリビングは明るく、色調、温度等家庭的で柔らかく、床は、美観・ノンスリップ効果の為にワックスコーティングが業者により年2回施されている。使用済みのコーヒー粉を消臭剤として使用する等職員の主婦としての知恵も活かされており、入居者には快適に過ごして頂ける様工夫をされている。	
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビ鑑賞される方、外の景色を眺める方 それぞれ自由に安全に過ごして頂けるように努めている。又 独りで過ごしたい方、気の合う人と過ごしたい方の気持ちを察知し、その都度、場所 時間のセッティングに心掛けている。		

54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの品が持ち込まれ、宗教や好みに合わせた居心地の良い居室作りを心掛けている。又 居室内が寂しい方への誕生日のプレゼントは壁に飾れる物等にして温かい雰囲気を出す工夫をしている。	基本的には、馴染みの品を持ち込める様になっている。ベッド使用や畳に布団を敷いたりと入居者の情態や好みに合わせ、居心地良く過ごせる様に整えておられる。入居者は、代表者からの心温まる誕生日プレゼントのひざ掛けやクッションを使用しておられる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全ての利用者が、建物内の場所を理解できる様にトイレ・浴場・利用者様の個人名」等 表にプレート掲げ 場所が判りやすいように工夫し、出来るだけ自立した生活がおくれるよう心掛けている。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない